出雲東部最後の最高首長墓を発掘調査
～ 山代原古墳（やましろはら こふん）の現地説明会（初公開）～

令和元年 12 月 22 日（日）
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

島根県埋蔵文化財調査センターでは、八雲立つ風土記の丘地内において、重要遺跡の保護を目的とした調査を継続して行っています。令和元年度から同 2 年度まで、松江市山代町にある山代原古墳の発掘調査を行っています。

このたび、古墳の形や規模などが明らかになってきたことから、調査成果について現地説明会を開催します。

山代原古墳について

古墳の概要：山代原古墳は、古墳時代後期（6 世紀～ 7 世紀前半）に出雲東部の最高首長墓域であった大庭・山代古墳群に所在し、当古墳群の中では最後に築造された最高首長墓と考えられます。墳丘は後世に削られたため、形や規模は不明ですが、内部の横穴式石室（よこあなしき せきしつ）が開口しており、研究者には古くから知られていました。石室は「石棺式石室（せっかんしきせきしつ）」と呼ばれる出雲東部独特の型式で、県内最大のものです。

調査期間：令和元年 11 月 20 日～12 月下旬

調査成果：

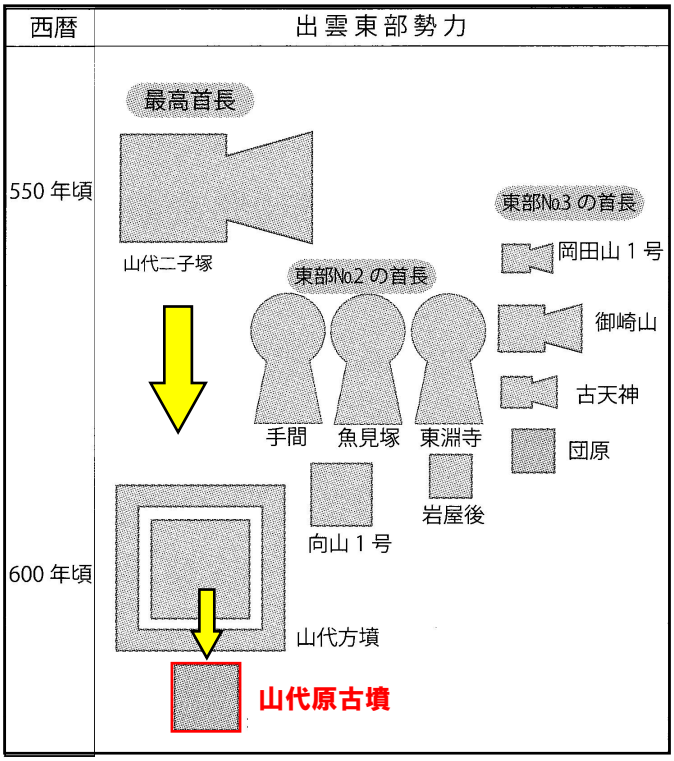
・古墳とその周辺の詳細な地形測量を行い、方墳である可能性が判明しました。

・墳丘のトレンチ調査により、古墳を囲む溝（周溝（しゅうこう））の一部を発見しました。

また、古墳の石室に用いられている石材（荒島石（あらしまいし））の破片を発見しました。

調査の意義：

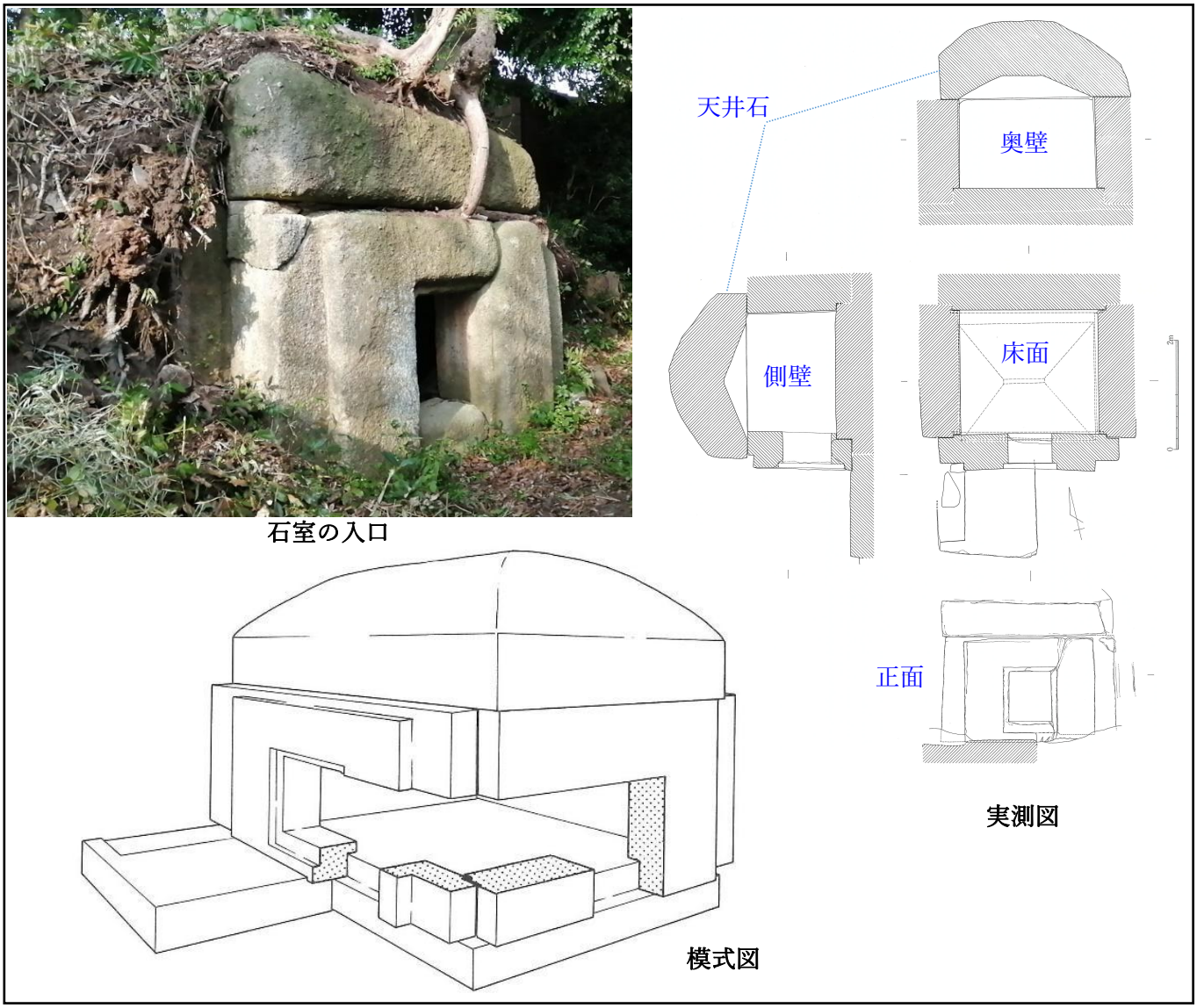
・山代原古墳は、出雲東部最後の大型古墳として戦前より知られていましたが、今回、初めて本格的な発掘調査に着手しました。古墳時代終末期から古代にかけての出雲東部の政治的動向を知る上で、貴重な資料を得ることができました。
・これまで不明とされてきた古墳の形に関する情報を得ることができ、方墳の可能性が高まりました。
・周溝の可能性がある溝の発見により、墳丘規模は約 23m である可能性が高まりました。
・石室石材である荒島石を墳丘の中から発見できたことにより、墳丘と石室の構築方法を知る手がかりを得ました。
・令和 2 年度に引き続き発掘調査を実施し、さらに古墳の詳細を明らかにする予定です。



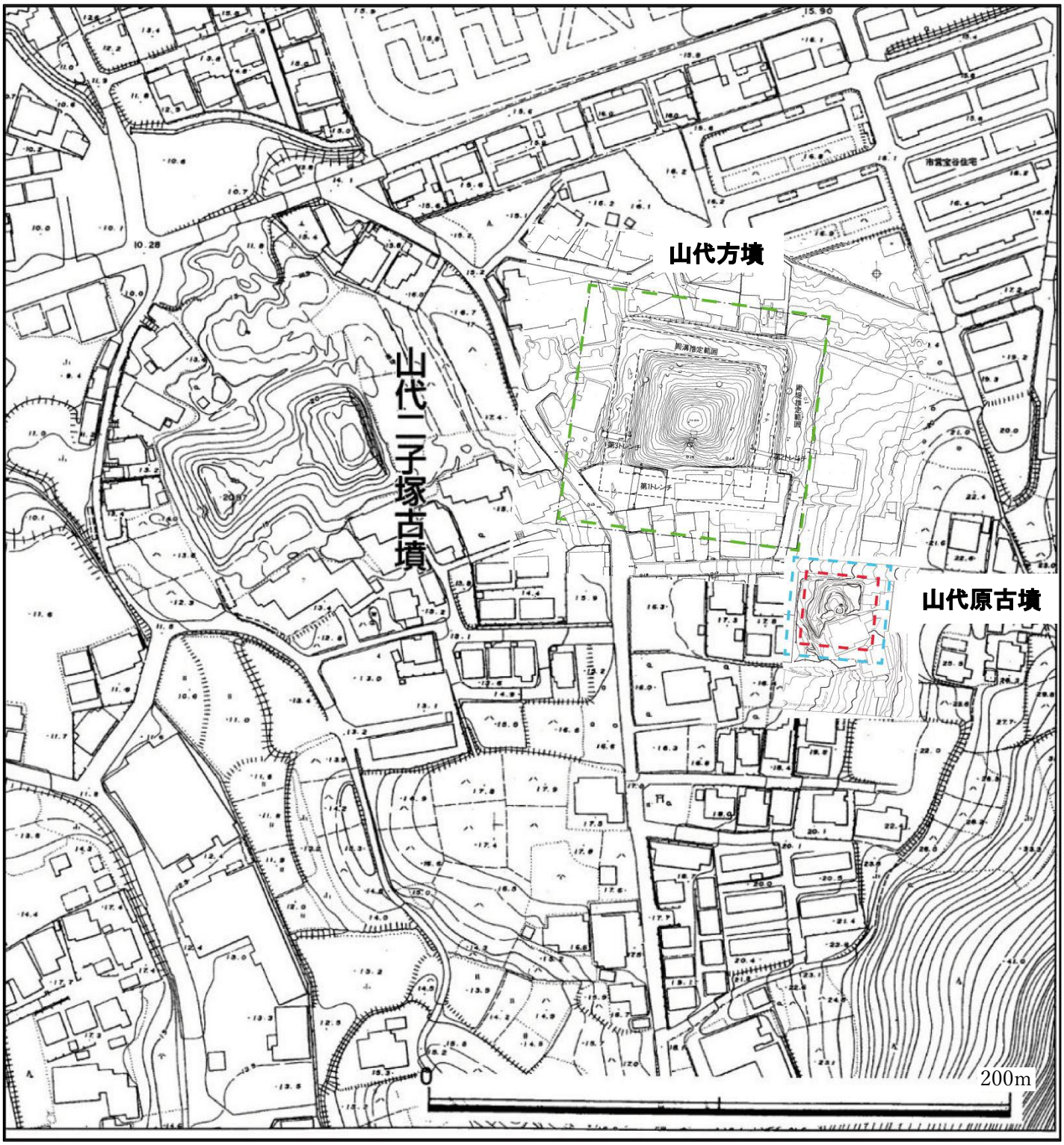
第 1 図　6 世紀における出雲東部の主要古墳変遷

（大谷 1997）

出典：（池淵俊一『古墳時代史にみる古代出雲成立の起源』松江市ふるさと文庫 18 松江市歴史まちづくり部史料編纂課 2017 年）を一部改変



第 2 図　山代原古墳の石棺式石室　　図面出典：（出雲考古学研究会編 1987）に加筆

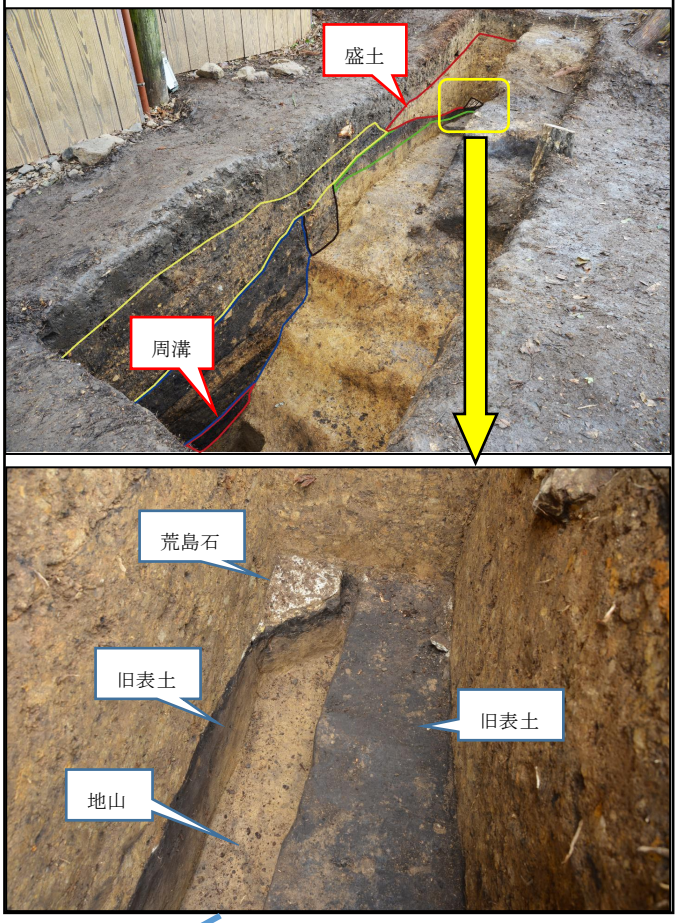


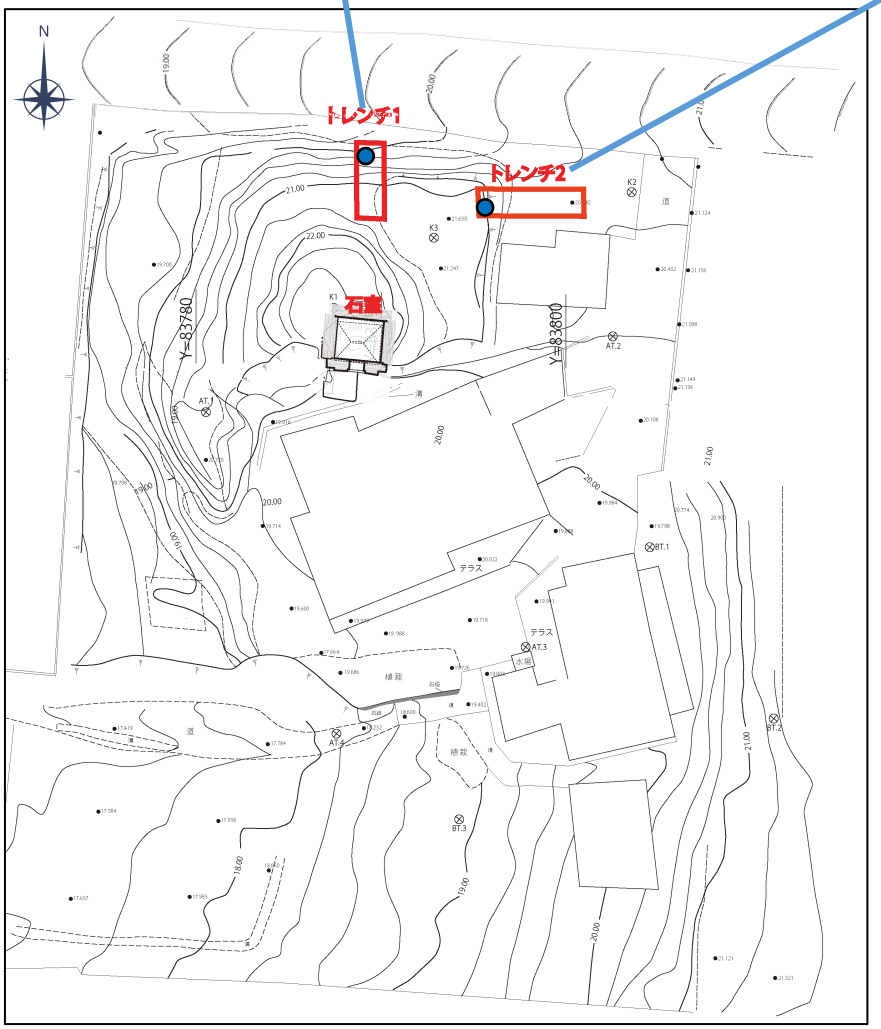
墳丘範囲(推定)
周溝(推定)
周堤(推定)

第３図　山代原古墳と周辺の古墳

トレンチ１の調査成果

トレンチ２の調査成果





●：荒島石出土位置

トレンチ１の調査成果
- 墳丘の堆積状況を確認
- 墳丘構築に伴う礫を確認
- 旧表土上より荒島石を確認
- 盛土中に荒島石を確認

トレンチ２の調査成果
- 周溝の一部を確認
- 墳丘の堆積状況を確認
- 旧表土上より荒島石を確認

～山代原古墳推定規模～

※ 方墳と仮定した場合

墳丘規模：一辺 19.14～22.74m

～【参考】山代方墳推定規模～
- 墳丘規模：43～45m
- 周溝幅：5.7～7.1m
- 周溝含む規模：55～57m

第４図　山代原古墳墳丘測量図（S=1/400）